

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 298人	社会 298人	数学 298人
	理科 298人	英語 298人	

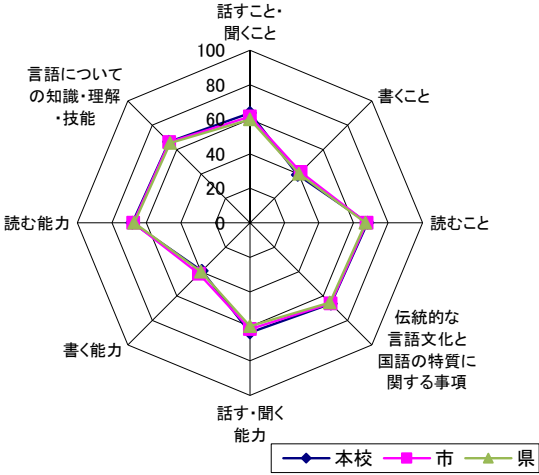
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.6	61.6	59.9
	書くこと	39.3	41.7	40.1
	読むこと	68.1	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.3	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	63.6	61.6	59.9
	書く能力	39.3	41.7	40.1
	読む能力	68.1	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	66.3	66.1	65.4



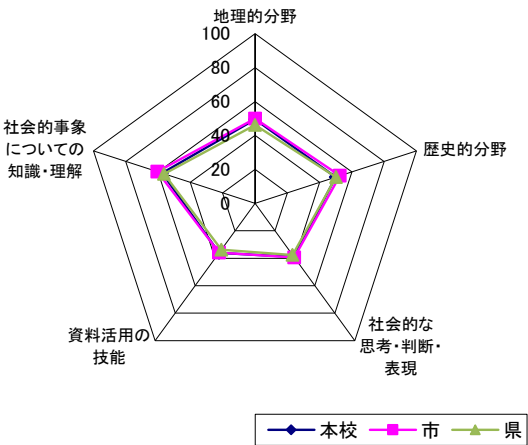
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は他の領域と比べて県・市の平均を上回っており、良好である。 ○特に「必要に応じて質問しながら話を聞き取る」力については県の平均を大きく上回っている。 ●課題が見られるものについては特になし。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、人の話をよく聞くこと、自分の考えをしっかりと伝えていくことを引き続き指導していく。
書くこと	○「文節の分け方」について、県・市の平均を上回っている。 ○「カードを基に、考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く」ことについては、県の平均を大きく上回っている。 ●平均正答率は県・市の平均を若干下回っている。 ●「友達の意見を参考に、鑑賞文の最後の段落を書き直す」設問については県・市の平均を大きく下回っている。	・授業中に書く課題を多く取り入れ、書くことの習慣をつけさせていく。
読むこと	○平均正答率は県・市の平均をやや上回っており、おおむね良好である。 ○「文章の内容を整理し、要旨を捉える」力については、県・市の平均を大きく上回っている。 ●「文学作品の表現の特徴を捉える」ことについては、県・市の平均を下回っている。 ●「描写や会話文を基に、登場人物の心情の変化を捉える」ことについては、無答率が高かった。	・文学作品を丁寧に取り扱い、登場人物の心情や情景描写を豊かに感じ取れるような授業展開を心がける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は県・市の平均をやや上回っており、おおむね良好である。 ○「歴史的仮名遣い」の設問では、県・市の平均を大きく上回っており、古典の基礎が身についていると思われる。 ○「表現技法(擬人法)」について、県・市の平均を大きく上回っている。 ●漢字の読み・書き全般において、県・市の平均を下回っている。とくに漢字の書きの問題「改める」については無答率の高かった。	・漢字の基礎・基本の習得については、本校国語科の課題として力を入れて取り組んでいる。現在行っている定期的な漢字テストを今後も続け、定着を図る。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	49.5	50.0	46.2
	歴史的分野	50.0	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	39.0	39.4	37.6
	資料活用 の技能	36.1	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	57.5	60.4	56.3



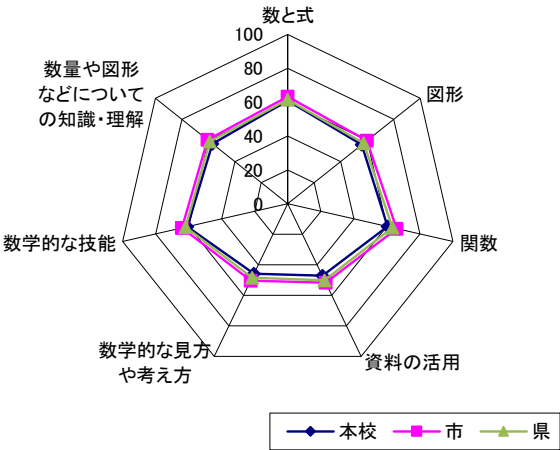
★指導の工夫と改善

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	○アジア州・オセアニア州に関する事項の定着は特に良好であり、県の平均を大きく上回っている。 ○雨温図や貿易の変化など、資料の読み取りも概ね良くできている。また、資料をもとにして考察する力もついてきている。 ●世界の州の名称と位置について、西アジアの資源（原油）についての定着に課題を残した。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地域ごとだけではなく、世界全体地図の分布図を活用しながら、資源や気候帯の読み取りを授業で扱う。 ・白地図を活用し、生徒自身でまとめるなどの作業学習を取り入れる。
歴史的分野	○縄文時代～室町時代における出来事を良く認識できていると言える。特に、鎌倉時代～室町時代の定着度が高く、県平均を大きく上回る結果が出ている。 ○資料から、その時代の生活を考えるなど、資料をもとにして考察する力は、歴史においてもついてきていると言える。 ●全体的に大きな課題はないが、細部をみると、天智天皇の跡継ぎ争い（壬申の乱）、武士として初めて太政大臣となった人物名（平清盛）を答える問題の正答率がやや低かった。	・時代の順番を確認していく。また、年表を活用し、時代ごとに事項を整理してまとめるなどの学習を行う。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.9	63.3	61.5
	図形	55.9	59.8	57.4
	関数	60.4	65.9	63.4
	資料の活用	47.1	51.7	50.1
観点	数学的な見方・考え方	45.9	50.4	48.5
	数学的な技能	60.8	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	56.9	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

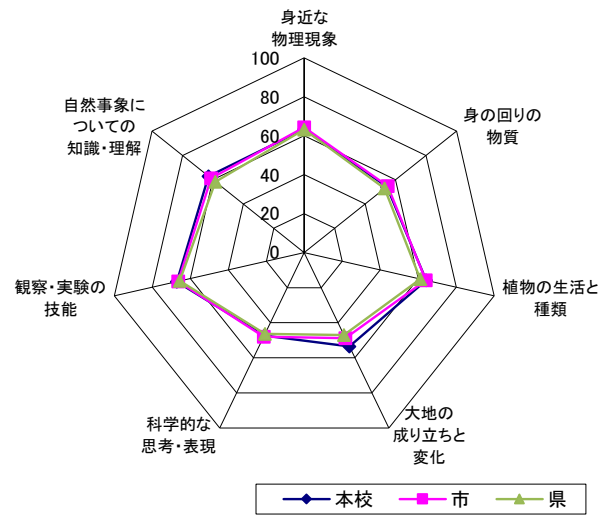
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正の数・負の数の内容では、県平均を1.3～1.8ポイント上回っている。 ○文字式の計算では、県平均を2.6ポイント上回っている。 ●考え方を問われた活用の設問では、県平均を6.5ポイント下回っている。 ●数量を表す関係を表す図から方程式をつくる設問では、県平均を2.5ポイント下回っている。	・授業の中だけでなく、家庭でのドリル形式の課題を取り入れて基本の定着を図っていく。 ・文字が含まれると誤答が増える傾向にあり、方程式にも影響しているので、文字式の計算も丁寧に指導し、繰り返すことで正確に速く処理できる力をつけていく。 ・数量の関係を線分図や表を用いて式を立てる上での手順を身につけさせるようにする。
図形	○空間図形で立体の投影図から見取り図を選ぶ設問では、正解率が9割を越えている。 ●空間図形の活用で三角柱と三角錐の体積の関係については、県平均を5.2ポイント下回っている。	・定規・コンパスを用いて丁寧な作図をし、図形の性質をきちんと理解させる。 ・実際の立体や視聴覚教材等を用いて、空間図形をイメージしやすくするように配慮する。
関数	○座標に与えられた点を記入する設問は、県平均を2.3ポイント上回っている。 ●関数分野は、県平均に比べて3.0ポイント下回っている。 ●表やグラフから式を求めたり、関係を式に表すことでは、県平均を3～5.8ポイント下回っている。	・式・表・グラフの関係を理解できるよう、日常生活の中で関数に関連のある題材を用意し、生徒の興味関心が高まるように努める。 ・上位層と下位層の差が大きく定着度が2極化しているので、理解が不十分な生徒の習熟度別指導を検討していく。
資料の活用	○度数分布表から指定された順番の階級を求める設問では、県平均を1ポイント上回っている。 ○ヒストグラムから理由を説明する設問では、県平均を0.4ポイント上回っている。 ●平均正答率が5割を割っており、県平均を3.0ポイント下回っている。 ●相対度数を求める設問では、県平均を9.9ポイント下回っている。	・度数分布表や階級値、代表値など意味を丁寧に指導する。その上で、身近な事例を紹介して、興味関心を高めるとともに、知識の活用を図る。 ・データの処理や度数分布表の作成などにおいて、グループ活動を通して、協力しながら学び合う学習を取り入れる。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	63.3	64.3	63.2
	身の回りの物質	54.3	54.8	52.8
	植物の生活と種類	64.2	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	53.5	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	47.3	48.0	46.4
	観察・実験の技能	67.1	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	62.9	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

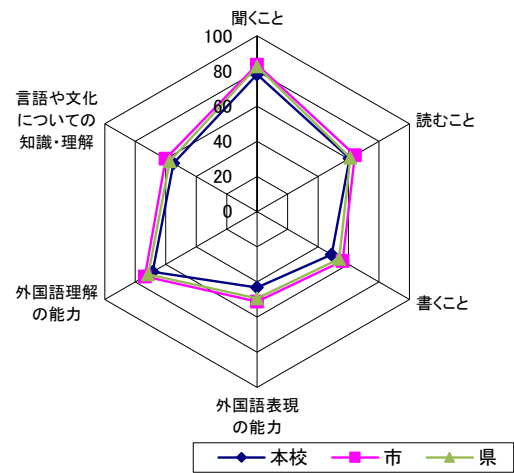
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○光の進み方の作図や設問に対する正答率は高く、おおむねの生徒が内容を把握していることがうかがえる。授業内で作図の仕方や基礎を丁寧に指導した成果が出ていると考えられる。 ●力と圧力では、計算の仕方や、力のはたらきについて課題が見られる。	・今後も、積極的に問題演習に取り組むとともに、考え方の指導を丁寧に行う。また、実験などで得られた結果から法則に結び付けられるな指導に努める。 ・目に見えない現象については、視聴覚教材などを用いてイメージしやすいようにし、理解の促進に努める。また、公式などを使った演習を積極的に行う。
身の回りの物質	○状態変化や水溶液の変化についてはおおむね定着しており、実験の方法や結果を整理して学習できている。 ○グラフからの読み取りでは、県の平均をやや上回った。 ●質量パーセント濃度の計算などが定着していない生徒が多い。また、物質の変化について知識が定着していないことがうかがえる。	・今後も実験の充実はもちろん、その実験を行う目的や意図を明確にするとともに、話し合い活動を取り入れながら授業を展開していく。 ・実験の結果から得られた内容を理解し、自分自身で考察に結び付けられるよう、話し合い活動の中にも個人で考える時間を設ける。 ・グラフや計算式にふれる回数を増やす。
植物の生活と種類	○平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○スケッチの正誤や蒸散の実験手順の説明などの正答率は高く、県や市の平均を上回った。葉にある気孔の数の違いなども正答率が高い。 ●植物のなかまわけの正答率が低く、知識の定着に課題が見られる。また、生徒間で正答率に大きな差が出ている。	・基礎が定着している生徒が多いので、発展問題への取り組みに力を入れていく。基礎の定着が必要な生徒には、丁寧に基礎を指導する。 ・観察や実験の中で仲間わけについても取り上げるとともに、教科書や映像だけではなく実物を見ながら学習できるようにする。
大地の成り立ちと変化	○平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○鉱物や堆積岩、初期微動、主要動の区別がついており、実験観察の内容も理解している生徒が多い。 ●市や県の平均は上回ったものの、図を基に地震の発生場所の特定する設問の正答率が低い。また、地層の様子から海の深さを特定するなど、考える問題に苦手意識を持つ生徒が相当数いることがうかがえる。	・教科書の内容の知識だけではなく、その知識を用いた設問に対する解答の仕方や、考え方について時間を割いて説明していく。 ・グラフや図を用いた授業を展開し、資料を活用して考える経験を積ませる。 ・堆積岩をはじめ、実物を積極的に授業に取り入れ、直接体験の機会を増やす。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	78.0	83.6	82.6
	読むこと	60.7	64.2	61.2
	書くこと	49.0	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	43.2	51.2	49.4
	外国語理解の能力	68.6	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	55.0	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文の内容に合う図を選ぶ問題の中には、県平均を3ポイント上回る設問がある。 ●疑問詞を用いた基本的な問いを聞き取る設問は、県・市平均を10ポイント下回っている設問もあり、課題である。 ●対話文やまとまりのある文章の問題では、正答率が県・市平均を若干下回っている。文脈を理解して考える・答えるなどに課題が見られる。	・授業中、リスニングの機会を増やし、聞き取る力をつける。本文のディクテーションを行うなど、英語音声の入力数を増やし、音声に対する苦手意識を払拭していく働きかけをしていく。 ・単語の発音がわからず、聞いても理解につながらないということもあるので新出単語の導入時などに発音指導を強化していく。 ・全体の内容をつかみながら文章や対話文を聞き取るように、普段から指導する。
読むこと	○長文(手紙)の読み取り正答率は、県平均を4ポイント上回っている。 ●文法や文中の指示語の読み取りについて等に課題があり、市平均を若干下回る設問がある。 ●対話文内の正しい応答文を選択する問題は、市平均を10.7ポイント下回っている。	・適語やあてはまる文を選ぶ問題等においては、前後のつながりをつかめていないと思われる。既習の語句や文法の定着不足から理解できないと考えられるので、教科書の本文や補助教材の長文問題の内容を読み取る学習を重ねていく。
書くこと	○How manyの問題では、正答率が市平均を6.6ポイント上回っている。 ●語順の理解や条件作文の問題では、市平均を約8ポイント下回っている。 ●記述式の作文問題では、県や市の平均より10ポイント以上下回っている。	・語句や文法の定着を図るために、授業の中で繰り返し取り上げていく。 ・英作文では、既習の表現法と結びつけて考えるようにさせる。また、生徒の興味・関心にもとづいた内容で書かせるなど、積極的に書きたいと思わせる工夫をしていく。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思うという回答が、県平均を4.5ポイント上回っている。

○将来の夢や目標をもっているという回答が、県平均を3.1ポイント上回っている。

○地域や社会で起こっている問題やできごとに関心があるという回答が、県平均を2.7ポイント上回っている。

など、学習と将来の社会生活について、肯定的な考えを抱いている。

また、コミュニケーション力についても、肯定的な印象を抱いている。

○グループなどでの話し合いに自分から進んで参加しているという回答が、県平均を3.8ポイント上回っている。

○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意であるという回答が、県平均を2.3ポイント上回っている。

理科については、肯定的な回答が多く、良好な達成率の基盤になったと考えられる。

○理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えているという回答が、県平均を3.8ポイント上回っている。

○理科の学習は好きという回答が、県平均を4.2ポイント上回っている。

○理科の授業の内容はよく分かるという回答が、県平均を4.1ポイント上回っている。

○自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだという回答が、県平均を4.5ポイント上回っている。

一方、学習の大切さを理解しながらも、日頃の家庭学習に課題が見られる。

●家で、学校の授業の復習をしているという回答が、県平均を14.3ポイント下回っている。

●家で、学校の授業の予習をしているという回答が、県平均を8.3ポイント下回っている。

●家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしているという回答が、県平均を9.7ポイント下回っている。

●学習に対して、自分から進んで取り組んでいるという回答が、県平均を5.7ポイント下回っている。

よって、家庭学習の充実を図ることが学力向上につながると考える。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習の充実	・保護者による家庭学習の確認を依頼 今日家庭で行う学習を帰りの会でプリントに記入し、1週間ごとに提出する。	どちらも今年度から始めたので、来年度以降、良好な数値が出ることを期待している。
・読書活動の充実	・短縮日課でも朝の読書の時間を確保した。	

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・数学、英語の授業が理解できない	・授業力向上研修	・教科内を中心にお互いに授業を見せ合い、効果的な指導法について研究を深める。 ・保護者の効果的な関りが子どもの家庭学習の時間を伸ばすという研究結果が出ていることを保護者会等で繰り返し紹介し、家庭学習の充実への協力を継続的に求めていく。
・家庭学習が十分行われていない	・保護者による家庭学習の確認	